

今そしてこれから在宅医療を支える皆さんへ

在宅医療 実践ガイドブック

—多分野融合型連携をめざして—



療養生活が長期に渡るとしたら、多くの方は「住み慣れた場所で自分らしい暮らしを続けながら医療を受けたい」と願います。今後、わが国の高齢化が進んでいくことを考えますと、在宅医療の果たす役割は、ますます大きくなると思われませんが、都の世論調査によると、在宅医療に対する都民の期待は高いものの、介護や急変時の対応など不安の多いこともうかがえます。都民が安心して在宅療養ができるように、在宅医療に携わる多くの医療従事者が、共通の認識の下、十分に連携をとり、適時適切な医療を提供できるようにしていく必要があります。

そのため、東京都では多くの医療関連職種がチームとして取り組むための「在宅医療実践ガイドブック」を作成いたしました。本ガイドブックは、イラストを多用し、脳梗塞後の療養や悪性腫瘍のターミナルケアなど、それぞれの場面で医療従事者が実際にどのように関わっていくのか、分かりやすく描かれたものとなっています。このガイドブックが各方面で広く活用され、患者さんが地域でより良い生活を送られることを願っています。

最後に、本ガイドブックを作成いただきました(社)東京都医師会や、執筆を担当いただきました編集委員などの皆様方に、心から感謝申し上げます。

平成二〇年三月

東京都福祉保健局医療政策部長

細川 えみ子

「個のより良き生存」を追求する現代社会において、在宅医療の充実は、古くも新しい中心的命題であろう。

かつて高齢者は、自らの棲み家で家族に見守られながら療養し、そこに医師が往診する姿が主要な医療モデルであった。その時代の医療水準や制度、インフラストラクチャーに応じた医療提供の姿であったとともに、社会や家族の在り方を背景にした人生観や死生感を、医療者が精一杯支えていたのだと信じたい。

今日、医学や医療制度の進歩により長寿社会が達成されたが、一方でがんや生活習慣病、認知症などに起因する、回復が困難な生活機能障害を抱えて生きる人々が増え続けている。多様な価値観、世帯規模の縮小、一人暮らしといった生活様式に応じて、それぞれの尊厳と療養生活を支え、いずれは死を看取るまでの、新たな医療モデルが必要となった。

その答えのひとつが、専門施設で疾病と対峙する高度で細分化した医療と連携しながら、暮らしの場で一人ひとりの生と死に向き合う「在宅医療」であると考えたい。

それは人生を相手とするがゆえに、医療者だけの取り組みに止まらず、生活インフラや街づくり、コミュニティや地域、哲学や宗教をも包括した、学際的な多分野融合の理念に基づく多職種協働によって、もたらされるものであるう。

はじめに

本書は、東京都の熱意ある企画と支援の下、一人ひとりの「より良き生存」の支柱として、新たな「在宅医療」が東京に根付くことを念願し、そこに活動の現場を持つ多職種が集い、先人の実践的知識を道標に、自らの経験を重ねながら執筆、編集したものである。

この書が、「在宅医療」のすべてを伝えるに十分なものでなくとも、人が人を支える医療・介護・福祉の分野に活動する人々、とりわけ次世代を担う人々の「在宅医療」へのかかわりの足がかりとなり、ひとりでも多くの在宅療養者とその家族のために役立ち、また、広く多分野の方々に、「在宅医療」の真実を理解していただくための一助となれば幸いである。

平成二〇年三月

東京都医師会在宅医療ガイドブック作成委員会

まえがき……………3
はじめに……………4

第一部 プロローグ 在宅医療とは？……………9

穏やかな生活を目指して
認知症の在宅医療……………10
母娘の絆で脳梗塞、転倒、骨折を乗り越えて
良性疾患の在宅医療……………40
自分らしい生き方を選択して
神経難病の在宅医療……………74
がんと向き合って
悪性疾患の在宅医療……………104
健やかな生活を実現するために
ある開業医の悩み……………138
● 私の訪問カバンの中身公開……………162

第二部 在宅医療マニュアル……………169

第一章 日常生活活動と参加の支援……………170

● 1 ■ **健康感とQOLー在宅医療のアウトカム**……………170
● 健康感について……………170
● OOL (Quality of Life : 生活の質) について……………170
● 2 ■ **居住環境**……………171
● 3 ■ **介護予防**……………172
● 介護予防実践ガイド……………172
● 4 ■ **移動**……………180
● フットケアガイド……………180
● 暮らしの場での転倒予防ガイド……………181
● 5 ■ **食と栄養**……………185
● 暮らしの場で行う口腔ケアガイド……………185
● 摂食・嚥下機能評価と対策ガイド……………195

第二章 心身機能の支援……………213

● 1 ■ **認知症**……………213
● 認知症の地域ケアにおけるかかりつけ医の役割……………213
● 周辺症状の基本的理解……………215
● 著しい精神行動障害への対応……………218
● 地域における認知症対応のあり方……………223
● 2 ■ **高齢者のうつ病**……………228
● 高齢者のうつ病について……………228

● 3 ■ **薬剤管理**……………230

● 高齢者の特徴と薬物療法のポイント……………230
● 服薬コンプライアンス低下の原因と対処……………231
● 誤嚥防止のための剤形選択……………233
● 薬の副作用と日常生活への影響……………234
● 高齢者の身体状況に応じた服薬支援……………238
● 在宅医療での服薬支援……………241
● 4 ■ **呼吸管理**……………244
● 慢性呼吸不全の種類……………244
● 呼吸管理……………244
● 5 ■ **神経難病・特殊疾患**……………246
● 神経難病・特殊疾患への対応……………246
● 6 ■ **在宅医療と皮膚疾患**……………248
● 褥瘡の予防と治療……………248
● 7 ■ **リハビリテーション**……………250
● 地域リハビリテーション実践ガイド……………250
● 訪問リハビリテーション実践ガイド……………252

● 栄養支援ガイド……………200
● 在宅点滴注射管理ガイド……………202
● 在宅中心静脈栄養法の管理ガイド……………203
● 気管切開管理ガイド……………205
● 胃ろうの日常的管理ガイド……………206
● 6 ■ **排泄**……………209
● 尿路管理ガイド……………209
● 消化器系ストーマ（人工肛門）管理ガイド……………211

第三章 終末期の支援 262		第四章 安心・安全の確保 283	
1 がん医療における連携体制の構築..... 262	● がん対策基本法とがん医療の方向性..... 262	1 薬剤と医療材料の管理..... 283	
● 地域がん診療連携拠点病院とかかりつけ医の連携..... 262	● 全人的苦痛 (total pain) とは..... 262	2 在宅医療廃棄物の廃棄..... 285	
2 全人的緩和ケア..... 264	● がん性疼痛と緩和ケア..... 264	3 在宅における医療行為と課題..... 286	
● 痛みの評価..... 265	● がん性疼痛治療薬の処方のみ立て..... 267	4 高齢者虐待の予防..... 288	
● オピオイド製剤の使い方..... 269	● レスキュー処方..... 272	● 高齢者虐待防止法 (平成18年4月施行)..... 288	
● 鎮痛補助薬の種類と使い方―副作用対策を含めて―..... 272	3 死の看取り..... 274	● 虐待に気づいたら..... 290	
● 在宅ホスピスを例とした死の教育..... 274	● 在宅ホスピスにおける、死の教育の実際..... 274	● 守秘義務との関係..... 290	
4 延命治療の差し控えや中止について..... 277	5 看取りと医師法..... 279	5 在宅医療と感染予防..... 290	
		● 二次感染の予防と多職種による情報共有..... 290	
		● 医療者や介護サービス担当者の守秘義務..... 291	
		● 標準予防策 (スタンダード・プリコーション)..... 291	